

高等部 数学科 学習指導案

日 時：令和4年1月29日（土）
9：30～10：20

場 所：本館2階 集会室

対 象：Bグループ 5名

授業者：峰藤 暁志 足立 充弘

1 題材名 『時間指定配達ゲーム』で、アナログ時計やデジタル時計の時刻や□分後の時刻を読み、指定の時刻に商品を届けよう

2 題材設定の立場

(1) 題材について

生徒観	本グループは、3年生2名（O・R）、2年生1名（L）、1年生2名（A・D）の計5名が在籍している。学習では、具体物进行操作する、正解してマスを進めるゲームなどの活動に、意欲的に取り組むことができるが、教師の反応で答えを変えたり、正解することに関心がなかったりする姿が見られる。
系統観	<p>本グループは、小学部1段階から小学部3段階の測定の内容を扱うグループである。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ●時を読む ●時半を読む（O） → 10分単位の時刻を読む（35～55分） → 5分単位の時刻を読む（35～55分）（A） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1分単位の時刻を読む（31～59分）（R） → ●時△分の□分後（前）の時刻を言う（5、10、15、20、30分）（D・L） </div> <p>これまでの時刻・時間の学習では、上記のように●時ちょうど、●時半、●時△分、起点の時刻の□分後の学習に取り組んでおり、おおむね、めあてを達成できている。このことから、習得している知識を活用する課題も取り入れながら、上記に太枠で示した指導内容を扱うこととした。</p>
指導観	本グループの生徒たちは、将来、時刻を見て好きなTVを見たり、職場で活動を判断して行動したりできるようにしてほしい。そのためには、短針と長針の位置を確認して時刻を読んだり、起点の時刻から□分後の時刻を読んだりする必要がある。そこで本題材では、模擬時計を操作する、正解を示す時計と対応させるなどして時計の針が示す時刻や時間の意味を考えながら課題に取り組むようにする。はじめは、教師と教具を使った仕方を知り、次第に自分で操作し、自分で考えて判断できるようにする。正解する経験を重ね、仕方や意味がわかることで、自分で時刻を読み、正誤を判断できるようになると考える。
教材観	本題材で扱う教材は、複数の注文票の時刻を読み、時系列に並べ、指定された時刻を示す配達先のイラストを順番に選んで商品を配達する仕組みである。この教材は、時間指定の配達を通して、注文票の時刻を読んだり、□分後など時間を考えたりする課題を設定できる。また、選択肢のイラストを確認することで、答えの正誤を判断することもできるようになると考える。生活になじみのある配達の仕事をする側になることで、楽しみながら時刻や時間について考え、正しく読み取ることができるようになってほしい。

(2) 生徒の実態と指導の方向

生徒の実態	
O	<p>【一般的な実態】 CA：18</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活では、活動が終わると日程表を見て、次の授業や活動を行う教室に移動する。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の表情や声の反応で、回答を変えたり、鉛筆で書いた答えを消したりすることが多い。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の流れの一つ一つを説明すると、最終的には自分で一連の活動に取り組むことができる。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ●時ちょうどと●時半の問いでは、針を読む順番やちょうどか半かを間違えることが多い。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が●時ちょうどの時刻に「今何時」と問うと、室内の時計を見て正しく読めることがある。 <p>【指導の方向】</p> <p>時刻を読む目的やよさを感じられるように、活動と時刻を一致させながら、●時ちょうどと●時半について確実に読むことができるように指導したい。そうすることで、時刻や時計に目が向き、活動の開始や終了を自分で判断できるようになり、一人でできることが増えていくだろう。短針は数字を読むことを理解できていることから、短針を読み、長針の位置からちょうどか半か判断することは可能であると考えられる。</p>
A	<p>【一般的な実態】 CA：16</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の状況下（人が多い、幼児がいる、はじめての場所など）で、対象に固執することがある。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ひらがなの単音の発語と、サインやジェスチャー、筆記（解読できない文字ひらがなと数字もある）、選択肢の提示で意思疎通を図ることができる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師に認められることで笑顔を見せ、次の課題に意欲的に取り組むことができる。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p>

A	<ul style="list-style-type: none"> ●時△分 (△=35 以降) の時刻を読むとき、(●+1) 時△分と読む。 ●時△分 (△=35 以降) を問う問題が続くと、30 分までを問う時刻も間違えることが増える。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で、教師が5分刻み (30 分以前) の時刻に選択肢を提示しながら「今、●時△分? (●+1) 時△分?」と問うと、室内の時計を見て正解を選ぶことができる。
	<p>【指導の方向】</p> <p>時計の仕組みや読み方の理解を深め、5分刻みの時刻が読める経験を繰り返し、自分の読んだ時刻を振り返り、正誤を判断して正解の時刻を読めるようになってほしい。そうすることで、時刻を読んで自分のする、したい行動を始めることにつながっていくのではないだろうか。5分刻みの時刻を概ね読むことができているので、短針の示す位置に目を向けることで、35分以降の時刻を読めるようになると思われる。</p>
L	<p>【一般的な実態】 CA : 17</p> <ul style="list-style-type: none"> 口頭指示に手本や文字などの視覚的な手がかりを加えると指示通りに行動ができることが多い。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物を数えるとき、具体物を指さす動きと数唱が一致しないことがあるが、ゆっくり数えるように伝えたり、教師と一緒に数えたりすると、正確に数えることができる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の仕組みや仕方を理解すると、課題を終えた後の正誤判断や、採点などに自分から取り組む。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル時計の●● : △△を読むことができ、24 時制を理解している。 0 : 00~24 : 00 のカードを提示して時系列に並べるよう伝えると、正しく並べるができる。 日程ボードのデジタル時計の表記を見て、9 : 30 の5分後を「9 : 00」と答える。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> 9 : 10 と 9 : 20 のカードを提示して、どちらが早い時刻か尋ねると、「9 : 20」などと答える。
	<p>【指導の方向】</p> <p>デジタル時計が示す時刻を読んだり、24 時制を理解したりできているが、●時△分の□分後の時刻を答えることができていない。そこで本題材では、5分後の時刻を正しく読めるようになってほしい。デジタル時計の時刻を読むことができることから、デジタル時計が示している時刻を起点にして、自分の手の指を数えて□分後の時刻を読めるようにしていく。そのために、手を模した教具を使用し、起点となる時刻や数え始めの位置や数え方を教師と一緒に確かめながら取り組むようにし、次第に自分で数えたり、自分の指を数えたりするようになっていく。</p>
R	<p>【一般的な実態】 CA : 18</p> <ul style="list-style-type: none"> 口頭での指示に応じて行動したり、自分がしたことや見たことなどについてことばで伝えたりする。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を解く際、答えがわかっているにもかかわらず答えないことがあるが、選択肢から選ぶと答えることができる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> はじめての課題に取り組むときに、その場で止まっていることがある。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> アナログ時計の1分刻みの時刻を読むとき、長針が一番近い文字盤の数字を起点にして「40、41、42・・・」などと数えて正しく読む。 10時11分などの、長針が45分以前のめもりを指しているアナログ時計を正しく読む。 アナログ時計の2時58分などの短針が次の時に近い時刻を読むとき、3時58分などと答える。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> アナログ時計の10時40分と10時50分を提示して、どちらが早い時刻か尋ねると間違えることがある。
	<p>【指導の方向】</p> <p>長針が46分以降の時刻を読むときに、●時を読み間違えることがある。本題材では、模擬時計で45分以降の時刻を作って読む活動を通して、長針が12を過ぎているかを確認し、長針が1周した範囲が60分と理解できるようにする。課題については、長針が1周した範囲が60分であることからわかるように、46~60分までの時刻から扱い、段階的に扱う時刻の幅を広げていく。また、複数の注文票を時刻の早い順に並び替える課題では、習得した知識を活用し、長針と短針の位置関係を正しく判断できるようにする。</p>
D	<p>【一般的な実態】 CA : 16</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の指示通りにものを持って来たり、行事の感想を発表したりする。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕組みや仕方を理解したり、課題を正しくできるようになったりすると、自分から発言したり、次々と課題に取り組んだりする。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 休憩時間中に、教師や友だちに、活動が始まる時刻になったことを伝える。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・5分刻みの時刻を正しく読み、2時30分を示すアナログ時計の5分後を正しく答える。 ・10時35分の10分後を尋ねると、「じゅうじじゅつぷん」と答える。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アナログ時計を提示して10時30分と10時45分のどちらが早い時刻か尋ねると間違ふことがある。
D	<p>【指導の方向】</p> <p>5分後の時刻を答えられるが10分後以降の時刻を答えることができていない。本題材では、模擬時計を使って□分後の時刻を作って読む活動を通して、文字盤の数字から次の数字までのめもりが5分間であることを理解し、10分刻み、15分刻みの時刻を読むようにしていく。その際、はじめに模擬時計を教師と一緒に操作しながらめもりを数えることで、文字盤の数字と数字までの時間が5分であることが理解できるようにし、次第に、一人でできるように段階的に支援を減らす。また、複数の時刻の□分後の時刻を読み取り、時刻の早い順に並び替える活動を通して、習得した知識を活用し、□分後の長針の位置関係と時刻の前後関係を理解できるようにする。</p>

3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している

題材目標		学習指導要領の扱う内容
O	知	時計プリントを見て●時か●時30分の時刻を読むとき、2つの針の示すことと読む順番がわかり、短針と長針を順に指さして時刻を読み、その後、プリントに「●時△分」とそれぞれに対応した数字を記入する(●=1~12)
	思	『時間指定配達ゲーム』で、●時か●時30分の注文票を見て商品を配達するとき、注文票の時刻と同じ時刻を示す時計の針の位置について考え、2つの針の位置が一致する時計を選択肢から判断し、配達先のイラストを選ぶ
	学	数学で学んだことよきや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う
A	知	時計プリントを見て時刻絵図と照らして5分刻みの●時△分の時刻を読むとき、長針が時計の12の数字に近づくと、短針は(●+1)時を示しているように見えることがわかり、短針と長針を順に指さし、時刻絵図から同じ時刻を示す時計を選んだ後に、●時△分の●と△に対応した数字カードを貼る
	思	『時間指定配達ゲーム』で、●時△分の時間指定の注文票を見て商品を配達するとき、△分を示す長針の位置を基に短針の位置について考え、短針が次の(●+1)時を示していないことを判断し、配達先のイラストを選ぶ
	学	図形の違いを理解し、数学で学んだことよきや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う
L	知	デジタル時計が示す●時△分(△=0~5)の5分後の時刻を記入するとき、数えた指の数が経過する時間であることがわかり、自分の左手の親指から順に指を曲げながら5分数えてプリントに5分後の時刻を記入する
	思	自分の左手を使い、複数の注文票のデジタル時計が示す●時△分(△=0~5)の5分後の時刻を読み、配達する順番を決めるとき、それぞれの時刻から経過した時間を考え、配達する順番を判断し、時刻が早いものから順に注文票を並べる
R	知	プリントの●時△分(△=46~60)を示す時計の時刻を読むとき、プリントに●時△分を記入し、「まだ●時」と説明する
	思	複数の注文票の時計が示す●時△分(△=46~60)の時刻を読んで、配達する順番を決めるとき、それぞれの時刻の長針と短針の位置について考え、配達する順番を判断し、配達する時刻が早いものから順に注文票を並べる
D	知	プリントの時計が示している●時△分の□分後(□=10・15)の時刻を答えるとき、長針が動いた範囲が経過する時間であることがわかり、プリントに●時△分の□分後の時刻を記入する
	思	複数の注文票の時計が示す●時△分の□分後(□=10・15)の時刻を読み、配達する順番を決めるとき、それぞれの時刻から時間が経過したときの長針の位置について考え、配達する順番を判断し、時刻が早いものから順に注文票を並べる
LDR	学	数量の違いを理解し、数学で学んだことよきや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする

4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載

5 本時案(全8時間の4時間目)

(1) 題目 『時間指定配達ゲーム』で、デジタル時計やアナログ時計で●時や●時半、●時△分の時刻や●時△分の□分後の時刻を作ったり、読んだりしよう

(2) 本時のめあてと評価規準

観点別の本時のめあて		評価規準
O	知	●時30分の時計プリントを見て、●時30分の項目に●時を記入するとき、●時カードとあわせる君を使って、短針と長針に分けて時刻を見
		自分から、一人で、「●時30分」と一度でも答える

		て、それぞれを読んだ後、短針と長針を合わせ、順に指さし、時刻を読んで答えを記入する (●=1~12)	
	思	『時間指定配達ゲーム』で、注文票に示されたそれぞれの●時30分の時刻を見て配達するとき、2つの時計の選択肢からどちらが注文票の時刻と一致するか考え、短針、長針の順に針が示す●時と△分を判断し、時間指定の配達先に商品を届ける	1問目を除いて2問以上正解する
A	知	時刻絵図と対応させて時計プリントの●時△分を読むとき、(●=10~11を除く・△=55)時刻絵図から正しい時計を選び、●時△分の●と△に対応した数字カードをボードにはる	最後の2問を正解する
	思	『時間指定配達ゲーム』で、注文票に示された●時△分の時刻を見て、同じ時刻を示す時計のイラストを選んで配達をするとき、●時55分を示す2つの時計の選択肢からどちらの時計が注文票の時刻と一致するか考え、長針、短針の順に時計を見て、●時か(●+1)時かを判断し、配達先に商品を届ける	不正解の回答を提出する前に自分から回答を変えたり、最後の2問で正解したりする
L	知	プリントのデジタル時計が示す●時△分(△=0~5分の1分刻み)の5分後の時刻を読むとき、ゴッドフィンガーの数えた指が経過する時間であることがわかり、ゴッドフィンガーの親指から順に5分数えてプリントに●時△分の5分後の時刻を記入する	2・4回目の課題に正しく回答をする(全5回)
	思	ゴッドフィンガーを使い、複数の注文票のデジタル時計が示す●時△分(△=0~5分)の5分後の時刻を読んで、配達する順番を決めるとき、それぞれの時刻から経過した時間を考え、配達する順番を判断し、教師と一緒に配達する時刻が早いものから順に注文票を並べる	1・3回目で、教師のこぼかけを聞いて課題に正しく回答する(全3回)
R	知	プリントの●時△分(△=46~60の1分刻み)を示す時計の時刻を読むとき、短針が示す範囲がわかり、プリントに●時△分を記入する	3・5回目の課題に正しく回答をする(全5回)
	思	複数の注文票の時計が示す●時△分(△=46~60の1分刻み)の時刻を読んで、配達する順番を決めるとき、それぞれの時刻の長針と短針の位置について考え、配達する順番を判断し、教師と一緒に配達する時刻が早いものから順に注文票を並べる	1・3回目で、教師のこぼかけを聞いて課題に正しく回答する(全3回)
D	知	プリントの時計が示している●時△分の□分後(□=10・15)の時刻を答えるとき、長針が動いた範囲が経過する時間であることがわかり、プリントに●時△分の□分後の時刻を記入する	3・5回目の課題に正しく回答をする(全5回)
	思	複数の注文票の時計が示す●時△分の□分後(□=10・15)の時刻を読んで、配達する順番を決めるとき、それぞれの時刻から時間が経過したときの長針の位置について考え、配達する順番を判断し、教師と一緒に配達する時刻が早いものから順に注文票を並べる	1・3回目で、教師のこぼかけを聞いて課題に正しく回答する(全3回)
全学		A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価する	

(3) 場面設定と準備物

場面設定	意図と工夫点	準備物
	<p>生徒の視力と、指示理解や注視に関する実態に応じて座席を配置した。また、場所と活動が一致するように、教室の前方に課題を、後方に配達先を設置した。</p>	 <p>教具名 ゴッドフィンガー 意図と用途 枠に起点となる時刻→数えはじめの時刻、経過の過程の時刻→経過した時刻の順に記入する。また、日常生活で左手を使って経過した時刻を求めることにつながるように、左手のイラストを使用した。</p>
 <p>教具名 模擬時計 意図と用途 指定された時刻を作って読む、短針や長針の位置を確認する、文字盤のめもりを数えるために使用する。</p>	 <p>教具名 あわせる君 意図と用途 短針と長針の示す先と読む順番を理解するために、短針と長針を分けて示したもの。</p>	 <p>教具名 時刻絵図 意図と用途 1~12時の各55分の一覧。●時のとき、●+1時との違いを判断できるように使用する。</p>

(4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

		一次	二次				三次		
時数		1	2	3	4	5	6	7	8
O	知技	本題材で学習する内容と教材の仕組み、教具の使い方を知る	●時30分の短針のみ の時計プリントを見て、 短針が示す数字を	●時か●時30分の長針のみ 0分か30分かを	●時30分の時計プリントを見て、 ●時を記入するとき、 (●=1~12)	●時か●時30分の時計プリントを見て、 ●時△分を記入するとき、 (●=6と12を除く)	(●=1~12)		
	できた姿		●時△分の必要な項目に記入するとき、(●=1~12) ●時カードを時計にあて、短針と示す数字を指さして数字を読み、 ●時を記入する	長針を指さして0分か30分かを 読み、時刻を記入する	●時カードとあわせる君を使って、 短針と長針に分けて時刻を見て、それぞれを読んだ後、短針と長針を合わせ、順に指さし、 時刻を読んで答えを記入する				
O	思判表		時間指定配達ゲームで、全ての注文票に示されたそれぞれの●時△分の時刻を見て、教師と一緒に配達計画表に早い時刻順に注文票を並べてから順に配達するとき、 2つの時計の選択肢から(次第に針の形が近いものにしていく) どちらが注文票の時刻と一致するか考え、 ●時カードを時計にあて、注文票と一致する●時 0分か30分を示す長針の位置				3つの時計の選択肢から どれが注文票と一致するか考え、 短針、長針の順に針が示す●時と△分 (●時カードとあわせる君の使用なし)		
	表出像								
A	知技	●時55分を示す12個の時計を見て、それぞれの時刻を読むとき、 それぞれの●時55分の○に対応した数字カードを貼り、その後、 短針を指さし、何時か答える	時刻絵図と対応させて時計プリントの●時△分を読むとき、 (●=9~12を除く・△=55)		(●=10~11を除く・△=55)	(●=1~12) (△=55)	(●=1~12) (△=5~55)		
	できた姿		時間指定配達ゲームで、注文票に示された●時△分の時刻を見て、同じ時刻を示す時計のイラストを選んで配達をするとき、 ●時55分を示す2つの時計の選択肢から どちらの時計が注文票の時刻と一致するか考え、 長針、短針の順に時計を見て、●時か(●+1)時か		時刻絵図から正しい時計を選び、 ●時△分の●と△に対応した数字カードをボードに貼る		配達候補の3つの時計の選択肢から(正答が選択肢にない問いも入れる) どの時計が注文票と一致するか考え、 同じ時刻があるかどうか、ないときは教師にない伝えること (教具は正誤判断に使う)		
A	思判表								
	表出像								
L	知技	デジタル時計が示す●時ちょうどの時刻の5分後の時刻を記入するとき 教師と一緒に、ゴッドフィンガーに起点となる時刻を書いた後、 ゴッドフィンガーの親指から順に時刻を記入し、プリントに●時△分の5分後の時刻を記入する	デジタル時計が示す●時ちょうどの時刻の5分後の時刻を記入するとき		デジタル時計が示す●時△分(△=0~5分の1分刻み)の5分後の時刻を記入するとき				
	できた姿		ゴッドフィンガーの親指から順に時刻を記入し、プリントに●時△分の5分後の時刻を記入する		ゴッドフィンガーの親指から順に5分数を記入し、プリントに●時△分の5分後の時刻を記入する				
L	思判表								
	表出像								
R	知技	プリントの●時△分(△=46~60(0))を示す時計の時刻を読むとき 教師と一緒に目盛りを数えてプリントに●時△分を記入する	プリントの●時△分(△=46~60(0))を示す時計の時刻を読むとき		プリントに●時△分を記入する		●時△分を記入し、まだ●時の理由を説明をする		
	できた姿		プリントに●時△分を記入する		●時△分を記入し、まだ●時の理由を説明をする				
R	思判表								
	表出像								
D	知技	プリントの時計が示している●時△分の□分後の時刻を答えるとき(2時間目□=5・10・3~6時間目□=10・15・7時間目以降□=5・10・15) 教師と一緒に 模擬時計で●時△分の□分後の時刻を作り、その時刻をプリントに記入する	プリントの時計が示している●時△分の□分後の時刻を答えるとき(2時間目□=5・10・3~6時間目□=10・15・7時間目以降□=5・10・15)		プリントに●時△分の□分後の時刻を記入する				
	できた姿		プリントに●時△分の□分後の時刻を記入する		プリントに●時△分の□分後の時刻を記入する				
D	思判表								
	表出像								
主体的な姿	粘り強さ	<input type="checkbox"/> 自分から活動に取り組む <input type="checkbox"/> 課題に続けて取り組む <input type="checkbox"/> 最後まで課題を終えてしまう <input type="checkbox"/> 自らやり直しをする <input type="checkbox"/> 自分から模擬時計を使う(R) <input type="checkbox"/> わからないときに教師に尋ねる(L) <input type="checkbox"/> 自ら針を指さす(O) <input type="checkbox"/> 教具を使って正誤判断をする(O・A)							
	学習調整	<input type="checkbox"/> 教具を使って正誤判断をする(L) <input type="checkbox"/> 教具を使用するかどうか自分で判断する							
配慮的に扱う内容		○異同の判断(O・A) ○時計を見て読んだ●時と日常生活の活動の時刻とを一致させる(O) ○5とびの数え方(D)							

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ				
	O	A	L	R	D
1. 前時を振り返り、本時の学習を知る。	○前時の学習を振り返り、本時の学習に意欲をもつことができるように、前時までに学習したことを尋ね、本時も●時や●時半、●時△分の時刻や●時△分の□分後の時刻を読む課題に取り組むことを知らせる。 ○本時の学習活動に見通しをもつことができるように、活動内容とゲームの開始の時刻をホワイトボードに記入して知らせる。				
2. ●時や●時半、●時△分や●時△分の□分後の時刻を読んだり、模擬時計で作ったりしてプリントに時刻を記入する。	○自分から課題に取り組めるように、●時や●時半、●時△分や●時△分の□分後の時刻を読んだり、模擬時計で作ったりして、プリントに記入することを知らせる。 ○時計の見る場所と順番を正しく答えられるように、教師の問いに、あわせる君を使って短針、長針の順番に、それぞれ短針は矢印の示す数字を、長針は30分と答えるか様子を見た後、続けて●時30分と読むようにする。正しく時刻を読めた場合には、時計を読む順番と●時30分の読み方を教師と一緒に指さして確認し、よく見ると時刻を正しく読めることを伝えて大いに認める。 ・長針を6と文字盤の数字で読む場合には、長針の読み方を思い出せるように、長針が真下を示しているときは何分かを問う。それでも答えられないときは、過去の問題のプリントを見て答えるようにことばをかける。 ・●時30分を示す位置の短針を(●+1)時と答えた場合には、あわせる君の短針のみのシートを見るように伝え、何時かを問う。それでも、(●+1)時と答えるときには、教師がシートを指さして、見る場所とその範囲を知らせるようにする。	○55分を示す●時の時刻を正しく読むことができるように、教師と一緒に時刻絵図の各時計の長針、短針、●時を順に指さして読み、その後、口頭で数回問い、問われた時刻を指さして答えるか様子を見る。 ○55分を示す●時の時刻を読むことができるように、プリントの時計と時刻絵図の時計を照らし合わせて同じものを見つけ、その時刻を答えるように伝える。正しい時刻を選び、プリントに記入することができた場合には、55分はもうすぐ(●+1)時台になることを伝え、短針は(●+1)に見えるが、まだその時刻にはなっていないことを時刻絵図の時計と時刻を指さしながら伝えて確認する。 ・プリントの時計と異なる時刻絵図の時計を選んだ場合には、短針が同じ位置を示す時計を選ぶことがわかるように、プリントの短針の先にドットシールをはり、それを見ながら時刻絵図にも同様の操作をする。	○起点の時刻の1分後の時刻をゴッドフィンガーの親指に記入し、5分後の時刻を記入できるように、親指に時刻を記入することを伝えて様子を見る。5分後の時刻を記入することができた場合には、ゴッドフィンガーの指が経過する時間であることを意味づけて認める。 ・ゴッドフィンガーの親指に1と記入した場合には、起点の時刻から経過する時間に注目するように、起点の時刻の1分後の時刻から数えることを伝え、一緒に起点の時刻から経過する時刻を数える。 ・ゴッドフィンガーの親指に起点の時刻を記入した場合には、起点の時刻から1分後の時刻から数えるように、ゴッドフィンガーの親指は起点の時刻の1分後の時刻になることを知らせ、一緒にゴッドフィンガーにそれぞれの時刻を記して、5分後の時刻を読む。	○●時△分を正しく記入できるように、模擬時計で時刻を作った後に記入することを伝える。正しい時刻を記入できた場合には、模擬時計の長針を12の位置まで進め、長針、短針の順に指さし、長針が12を示したときに短針が次の時を示すことを意味づけて認める。 ・次の時の時刻を記入した場合には、短針の位置に注目するよう、模擬時計の長針と一緒に進めながら短針が示す位置を尋ね、長針が12になったときに短針が次の時を示すことを確かめる。 ・●時58分や●時59分などの時刻を「(●+1)時」と記入した場合には、長針の位置に注目するように、模擬時計の長針と長針が示すめもりを指さして、長針が12を指しているか尋ね、長針が12を示したときに(●+1)時になることを伝える。	○□分後の時刻を正しく記入できるように、□分後の時刻を記入することを伝え、□分後の時刻を正しく記入できた場合には、模擬時計の長針を起点のめもりから□分進め、長針が動いた範囲が経過した時間であることを意味づけて認める。 ・「●じ□ふん」などと記入した場合には、長針が示す位置に注目し、その数字から□分後の時刻を読むことができるように、長針が示す数字を尋ね、その数字から、□分後の時刻を読むことを伝え、一緒に模擬時計を操作して□分後の時刻を読む。 ・5分後の時刻を読んだ場合には、長針が示す数字から経過する時刻に注目して読むよう、模擬時計を一緒に操作しながら起点の時刻から経過する時間を数え、□分後の時刻を読む。
3. 複数の注文票の時刻を読み、指定された時刻や時系列に並べた順に商品をお届けする。	○時刻の学習をするよさを感じたり、学習したことを生かせる経験を積んだりするために、学習した知識を使って、注文票ごとや複数の注文票を指定時刻の早い順に並べてから商品をお届けすることを知らせる。 ○時刻と時計を一致させられるように、時刻を文字で表した注文票と時計で表した確認表を用いて、2枚の確認表から同じ時刻を選ぶように伝える。文字と時計の時刻を一致させた後、確認表の時計を見て、配達先にある時刻を文字で表した2つの選択肢から確認表の時計と同じ時刻を選ぶように伝える。 ・文字から時計、または時計から文字で同じ時刻を選択する場面で、異なる方を選択した場合には、同じ時刻を示すものを選ぶ学習を行っていると思われるように、問いと同じ時計プリントを解き、時計を見て、自分で時刻を記入するように伝え、必要に応じて教師が支援を行う。自分で書いた時刻と確認表の文字の時刻を一致させ、その後、プリントの時計とも同じであることを見比べて確認するようにする。 ○正しく配達できた場合には、時刻を読めるよさわかるように、短針、長針の順番で●時△分と読むことができたこと、時刻と時計を一致させると商品をお届けられることを意味づけて大いに認める。				
4. 本時を振り返り、次時の学習を知る。	○本時の成果を振り返るために、本時で取り組んだ課題を行い、発表するように知らせる。 ○次時への意欲がもてるように、次時の活動を知らせて本時を終える。				

